

愛宕臨床栄養研究会 (ACNC) 第82回学術研究会

日時：平成27年3月13日午後5時50分-7時30分

会場：東京慈恵会医科大学大学1号館5階講堂

司会：木杉玲子(東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部)

一般演題：肝硬変・肝細胞癌患者のGA/HbA1c比による肝予備能の検討

東京慈恵会医科大学附属第三病院中央検査部

宮本 博康

目的：HbA1cとGAの比(GA/A1c)が肝予備能を評価する指標と成りうるか、Child-Pugh(CP) score, 肝細胞癌の肝障害度, 各種臨床検査値と比較検討した。

対象：肝硬変・肝細胞癌患者87名(74.3±8.5歳)。

方法：HbA1c(HPLC法), GA(酵素法)よりGA/A1cを算出した。予備能はCP scoreと「原発性肝癌取り扱い規約」の肝障害度を用いた。

結果：1) CP scoreとP値0.01未満の相関を認めた項目はGA/A1c, GA, ChE, ALP, T-Bil, TP, ALB, T-CHO, Hb, PLT, PT%, ICG R₁₅, IV型コラーゲン(IVC)であった。2) 肝障害度評価項目以外に各群間にてP値0.05未満の有意差を認めた項目は, GA/A1c, CP score, ChE, PLT, IV Cであった3) GA/A1cとP値0.01未満の相関を認めた項目はCP score, FPG, ChE, T-Bil, ALB, T-CHO, Hb, PLT, PT%, ICG R₁₅, IV Cであった。まとめ：GA/A1cは肝硬変患者の肝予備能を評価するCP scoreや肝障害度と良好な関連性を認めた。また, 肝線維化の指標であるIVC, Hb, PLTと有意な相関が認められ肝予備能や肝線維化の指標として有用と思われた。

特別講演：糖化タンパクと臨床検査

東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座

大西 明弘

糖化反応はアミノ酸と還元糖を加熱すると褐色の色素が生成することから発見され、メイラード反応と呼ばれている。この反応はアミノ基とカルボニル基の間の非酵素的な化学反応で、シッフ塩基を形成(不可逆的な反応)後に、アマドリ転位によって安定なアマドリ化合物になる。生体内のアマドリ化合物としてはHbA1c(A1C)やグリコアルブミン(GA)などが代表的な物質として検査されている。今回長年報告してきたアルブミンの糖化部位や慢性肝疾患を含めた諸種疾患でのA1C, GA, GA/A1C比の変動とGA, GA/A1C比の病態鑑別マーカーとしての有用性について紹介する。また生体内で糖化後のアマドリ化合物は、脱水, 加水分解, 開裂に加えアルデヒド化合物等の諸種の修飾によりAGEs(糖化最終産物)が生成される。GA上では少なくとも数%はアマドリ化後にAGE化しており、今回は代表的なAGEであるペントシジンの糖尿病患者での変動について紹介する。